ANNUAL REPORT
2020-2021

CROSS FIELDS

Beyond the Border, Create the Future.













Beyond the Border, Create the Future.

社会に「分断」ではなく「つながり」を。
いまこそ、枠を超えて橋をかけ続ける。

いま世界で起きている変化を乗り越えるために必要なのは、
人々がつながり、支え合うこと。
そう信じて、これからもクロスフィールズは挑戦を続け、
社会の未来を切り拓きます。

Our Vision

目指す世界

すべての人が「働くこと」を通じて、
想い・情熱を実現することのできる世界

企業・行政・NPOがパートナーとなり、
次々と社会の課題を解決している世界

Our Mission

果たすべき使命

枠を超えて橋をかけ 挑戦に伴走し
社会の未来を切り拓く

「存続危機を乗り越え、さらに力強く社会課題に向き合う」

私たちクロスフィールズにとって、2020年は試練と挑戦の年でした。留職では新興国への派遣ができず、社会課題の現場を舞台にしたフィールドスタディも軒並み中止。一時は団体の存続自体が危うい状況になりました。しかし、関係者の皆様のサポートを受けて事業内容の大きな転換に成功し、危機的状況を脱することができました。

今こそ、社会の分断に対して「共感」の力で立ち向かいたい。人と社会がもっとつながることで、社会課題の解決を加速していきたい。その信念を胸に、2021年度も日々の活動に全力を注ぎ続けていきます。

コロナ禍を振り返った記事はこちらから

Message 代表からのメッセージ



共同創業者・代表理事

小沼大地



Timeline

2020-2021

コロナ禍でのあゆみ

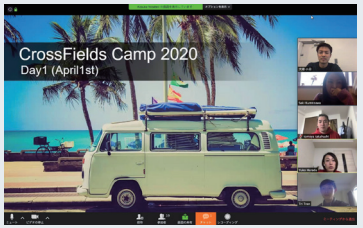
留職者の一斉帰国を実行

安全管理の観点から現地活動中だった留職者計9名の緊急退避を決断。フィリピン、インド、カンボジア等から全員が無事帰国する。

職員のリモート勤務体制を開始

2日にわたる「オンライン合宿」を実施

全員参加の合宿をリモートで行い、団体の今後について協議。いち早くオンラインでの深い対話を実践した結果、事業転換への手応えを掴む。



パートナー団体との対話を重ねる

既存事業を再開できないなか、国内外の50を超える企業／NPOの方々との対話を通じ「私たちにいま何ができるのか」見つめ直す。



インドのパートナー団体との対話の様子

2020年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月

社会の動き

- 世界 中国の武漢市で感染拡大
- 世界 世界各地で症例が確認される
- 日本 クルーズ船にてクラスター発生
- 日本 小・中・高等学校の一斉臨時休校が決定（2月27日）
- 世界 全世界における感染者数が8万人を超える
- 世界 インド、フィリピン等でロックダウンの措置が取られる
- 世界 **WHOによるパンデミック宣言（3月11日）**
- 日本 日本各地で症例が報告される
- 日本 東京オリンピックの延期が決定（3月24日）
- 日本 1回目の緊急事態宣言が発令

オンライン型プログラムの開発に着手

各種事業のオンライン化を決定。パートナー団体/企業の方々と協働し、トライアルの実施やプログラムの改善を繰り返す。

- 日本 緊急事態宣言が全面解除

ソーシャルセクター緊急雇用マッチングの開催

コロナ禍による需要急増で人材ニーズが高まるNPOに対し、稼働が低下したNPOのスタッフや一時帰国中の青年海外協力隊員をマッチングする取り組み。オンラインイベントには総勢150名が参加し、10件以上の雇用創出につながる。



当日のレポートはこちら

オンライン対話型社会課題体感フィールドスタディ開始

現地型プログラムを完全オンライン化。参加者がリモートで社会課題に取り組む団体とつながることを実現。対話を通じて内省を深める新しいプログラムに進化。



初の職員出向を実行

職員1名を半年間にわたり認定NPO法人カタリバに派遣。クロスフィールズ初の「留職者」となった職員・藤原は、カタリバが運営する子ども向けオンラインプログラムの事業化や学術機関とのプログラム効果検証などを担当。



KATARiBA Shape the Future

詳細レポートはこちら

6月

国内留職プログラムの提供を開始

日本国内のNPOや社会的企業を派遣先とする「国内留職」を始動。



プレスリリースはこちら

共感VRワークショップ開発に着手

VR／360度映像を活用し、課題の当事者の目線で社会課題を擬似体験する「共感VR」ワークショップの開発をはじめる。



「新しい国際協力」への挑戦

コロナ禍で経営難に陥ったベトナムの社会的企業を、有志のクロスフィールズ職員と留職経験者の計4名が支援する活動を実施。業務外の時間を利用し、完全リモートで3ヶ月にわたり資金調達サポート等を行う。



詳細レポートはこちら

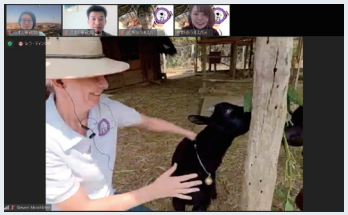
CEG2020 オンライン開催

クロスフィールズのプログラム参加者や関係者が一同に集まるイベント「Cross Fields Empowerment Gathering（略称：CEG）」をオンラインで開催。総勢120名が参加し、カンボジアや福島で社会課題に向き合うリーダーとの対話などを行う。

詳細レポートはこちら

オンラインプロボノ事業を始動

新興国のNPO・社会的企業が抱える課題に完全リモートで取り組む「オンラインプロボノ」事業を開始。



プレスリリースはこちら

8月 | 10月 | 11月 | 12月

「STEAMライブラリー」開発事業を受託

経済産業省「未来の教室」の一環で「共感VR」を中高生向け学習教材として提供することが決定。VR/360度映像を活用し、社会課題の擬似体験をする教材と指導要領をオンライン上で無償公開。教材制作にあたっては教育現場でのトライアルを行う。



STEAM Library

プレスリリースはこちら

外部人材の受け入れを加速

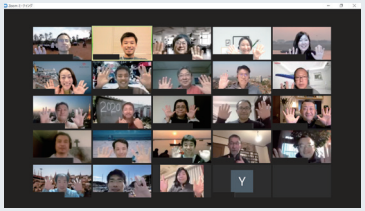
インターンやレンタル移籍者の受け入れを進める。JICA職員、一時帰国中の海外青年協力隊員、村田製作所エンジニアの計3名を同時期に迎える。



プレスリリースはこちら

SIM2021をオンラインで実施

企業の役職者向けプログラム「Social Innovation Mission（略称：SIM）」をオンラインで開催。インド、ルワンダの社会起業家とつながり、リアルタイムで議論を行う。



5月3日にクロスフィールズ創業10周年を迎える

10年を振り返る小沼の記事はこちら

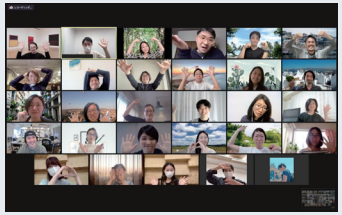
オンライン型 社会課題体感フィールドスタディ、参加者が310名に

国内留職の参加者が15名を突破

2021年3月 5月

長期戦略の改定プロジェクトを開始

コロナ禍を経て、今後10年を見据えた長期戦略の改定と団体のリブランディングを推進。戦略デザインファームBIOTOPE社協力のもと全職員で対話を重ねる。



Member's voice



事業統括ディレクター

久米澤 咲季

海外留職の中止が決まり、志半ばで帰国せざるを得ない留職者の姿を見るのは初めてでした。涙する時間も束の間、現地派遣型の事業を失った私たちは、今できることにゼロからチャレンジしました。「ピンチをチャンスに」を合言葉に、自分たちを鼓舞して進んできた1年。コロナ渦でもクロスフィールズが前に進めたのは、パートナーである企業やNPOの皆さまのおかげです。この感謝の気持ちをさらなる飛躍につなげていきます。



経営管理ディレクター

星野 賢一郎

コロナ禍で急転換が求められたのは事業だけではありません。「現場の力」を信じる私たちは難しい場面ではいつも「皆で集まり、議論を尽くす」方法を採ってきました。全事業を止めたウイルスは私たちからこのスタイルまで奪います。対面を禁止し、すべてをオンライン化しました。ルールは毎週書き換えました。今日のことしか考えられない嵐の3ヶ月が過ぎたとき、非対面で全業務を行う「新しいクロスフィールズ」が完成していました。

Program Reports

事業報告

コロナ禍でクロスフィールズの事業内容は
大きく転換しました。
続くページでは各事業の概要と、
2020年度の活動実績を記載します。

01 留職プログラム
Corporate Volunteering Program

02 社会課題体感フィールドスタディ
Social Issue Understanding Field Study

03 社会課題解決ワークショップ
Social Business Creating Workshop

04 共感VRワークショップ
Empathy VR Workshop

05 オンラインプロボノ
Online Pro-bono Program

06 ソーシャルセクター支援
Social Sector Empowerment

留職プログラム

Corporate Volunteering Program

**企業の社員を国内外のNPOや社会的企業に
数か月にわたって派遣し、本業のスキルを活かして
社会課題の解決に取り組むプログラム。**

（海外派遣は一時休止中。2020年度は国内派遣のみ実施）



2020年度の活動実績

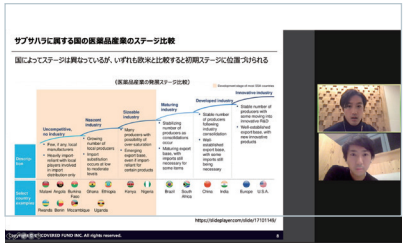
派遣人数	企業数	パートナー団体数
15人	5社	13団体

事例紹介



KIRIN社員が宮城県石巻市にて農業課題に取り組む

詳細はこちら



SOMPOホールディングス社員が国内でグローバルな課題解決に挑む

詳細はこちら



岩手県洋野町で東京海上日動火災保険の社員が活躍

詳細はこちら

Member's voice



プロジェクトマネージャー
千足 容資

全ての海外留職が中断した2020年春。諦めと混乱の中、「お互いに助け合いましょう」と国内のパートナー団体の方々とがむしゃらにプログラムを作りました。その過程を通じて改めて、国内にも社会課題は山ほどあり、それに立ち向かう素晴らしいリーダーが数多いることに気付かされました。受入団体で自己研鑽し大きく成長された留職者の皆さんを思うと今も胸が熱くなります。海外派遣の再開も目指しつつ、挑戦を続けていきます。

事業の詳細はWEBサイトから

新興国留職プログラム

国内留職プログラム

社会課題体感フィールドスタディ

Social Issue Understanding Field Study

国内外の社会課題の「体感」と現地リーダーとの対話を通じて、社会に対する鋭い感性とぶれない軸を育む短期集中型のプログラム。

（2020年度はオンライン型を中心に展開）



2020年度の活動実績

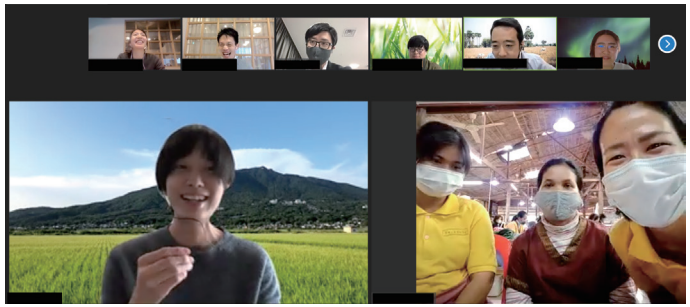
実施件数	参加人数	企業数
15団体	310人	9社

事例紹介



PwCコンサルティング社員が震災被災地の課題を自宅から「体感」

詳細はこちら



つくば市職員がカンボジアとつながり「街」の未来を考える

詳細はこちら

Member's voice



プロジェクトマネージャー

米谷 浩佑

この事業が最も大切にしている「現場で」社会課題を体感するという要素を手放さざるを得なくなり、本当に価値が出せるかと大きな不安に直面しました。失われるものを追い求めるのではなく、オンラインだからこそ提供できる価値は何か、という視点に立てたことが成功に繋がりました。今後も対面型とオンライン型、それぞれの強みを生かしながらプログラムを進化させていきます。

事業の詳細はWEBサイトから

現地訪問型

オンライン型

社会課題解決ワークショップ

Social Business Creating Workshop

企業の社員がチームを組み、国内外で社会課題解決に取り組むリーダーと2-3ヶ月にわたり事業アイデア創出を行うプログラム。

（2020年度はオンライン型を中心に展開）

2020年度の活動実績

実施件数	参加人数	企業数
8団体	98人	7社



事例紹介



東京から長野県・小布施町の課題に取り組む

日立システムズの社員19名がリモートで現地とつながり、課題解決に向けた事業アイデアを練り上げました。

詳細はこちら

Member's voice



フィールドスタディ事業統括

原田 悠子

この事業は社会課題に立ち向かうリーダーの熱を参加者に伝播させ、「何かしたい」衝動と参加者間での創発的な学びを生み出すことを大切にしています。だからこそオンライン化は大きなチャレンジでした。しかしパートナーの皆さまと試行錯誤を続けた結果、現地とつながって課題を自分事化し、創りたい未来を描くプログラムを生み出すことができました。これからも新しい挑戦を続けていきます！

事業の詳細はWEBサイトから

社会課題解決ワークショップ

共感VRワークショップ

Empathy VR Workshop

**VR/360度映像で
社会課題の現場を疑似体験し、
当事者への共感や課題解決への
想いを育むプログラム。**

（教育現場と企業向けに展開中）

共感VR™



事例紹介






経済産業省「未来の教室 STEAMライブラリー」事業

開発事業者として中高生向けの教育コンテンツを制作し、トライアル授業を実施。コンテンツのさらなる改良に取り組んでいます。

STEAM Library

教育現場での実施模様を伝える記事はこちら

Member's voice



共感VR事業リーダー

高橋 智也

「コロナ禍で進んだ物理的な断絶を、テクノロジーの力で乗り越える」ことを目指し、本事業は生まれました。様々なチャレンジに直面した一年でしたが、パートナーのみなさんの協力のおかげで中高生向け教材の開発など多くのチャンスをいただきました。テクノロジーの力で社会課題への「共感」をより多くの人に届ける、という可能性への確かな手応えを感じ始めています。

事業の詳細はWEBサイトから

共感VRワークショップ

オンラインプロボノ

Online Pro-bono Program

**新興国のNGOや社会的企業が
抱える課題に、企業の社員が
日本からオンラインで
取り組むプログラム。**



事例紹介



日本で働きながらラオスの社会課題に挑む

アステラス製薬の社員2名が参加。ラオス農村部で栄養環境の改善に取り組む団体の課題解決をサポートしました。

詳細はこちら

Member's voice



企業パートナーシップ副統括 ／
プロジェクトマネージャー

法幸 勇一

コロナ禍でも社会課題に挑む新興国の団体と、日本企業の社員どちらにも価値のあるプログラムを創れないだろうか。そんな想いでこの事業は生まれました。画面越しで現地の課題と向き合い、相手と信頼関係を作りあげて活動を進めていくのは挑戦の連続でした。最初の案件を経て、リモートで課題解決とリーダー育成を実現する新たな可能性が開いたと感じています。さらなる進化に期待して下さい！

事業の詳細はWEBサイトから

オンラインプロボノ

ソーシャルセクター支援

Social Sector Empowerment

**国内外のNPOや社会的企業と
社会的インパクトの創出する事業。
様々なネットワークを活用し、
社会課題解決に挑むリーダーを
支援する。**



事例紹介



コロナ禍で新しい支援の形を模索

ソーシャルセクター緊急雇用マッチングの開催※1や、有志の職員によるパートナー団体の支援※2などを実施。コロナ禍で苦境の団体への伴走を続けています。

※1に関する記事はこちら

※2の取り組みはこちら

Member's voice



新規事業開発リーダー

西川 紗祐未

コロナの影響で多くのパートナー団体が苦しむ姿を目の当たりにしながらも何もできない。そんなもどかしさを抱え、自分たちの存在意義を問い直す日々でした。しかし、こんな時こそ彼ら・彼女らとの対話を大切にしよう。そうする中で、新たな協働の可能性が見えはじめました。実験的な活動が新規事業に繋がったこともあれば、模索を続けているものもあります。先が見えないなかでも可能性を信じ、挑戦を続けていきます！

事業の詳細はWEBサイトから

ソーシャルセクター支援

メディア掲載　2020年度は合計24回掲載されました。

新聞、雑誌、ラジオ：12回　ダイヤモンド社、読売新聞、Tokyo FM　等



Tokyo FM「SDGsティーチャー」出演

アーカイブ視聴はこちら

ウェブ：12回　BUSINESS INSIDER、日経新聞電子版　等　／　掲載記事は以下よりご覧いただけます（一部有料記事あり）

2020年6月25日	BUSINESS INSIDER	コロナでNPO苦境 。相談急増で人手不足の一方、仕事できない団体も。マッチングで解消へ
2020年6月1日	ROOKIES	教師になりたかった僕が、なぜNPOを立ち上げることになったのか？
2020年6月25日	ROOKIES	念願の青年海外協力隊へ。現地シリアで培った起業家精神。
2020年7月28日	ROOKIES	興味のあることを、とことん突き詰めてみよう。そうすれば、道は拓ける。
2020年9月18日	日本経済新聞	職場の雑談が恋しい… 在宅勤務で「つながり係」任命
2020年11月19日	JICA PARTNER	第48号 PARTNERコラム：クロスフィールズの国際協力①：日本企業と新興国のNGOをつなぐ仕事、とは？
2020年11月26日	JICA PARTNER	第49号 PARTNERコラム：クロスフィールズの国際協力②：フルタイムの会社員がリモートで新興国の団体を支援
2021年2月1日	ダイヤモンド・オンライン	ビジョンを語るだけがリーダーの仕事ではない クロスフィールズ小沼大地氏が語るミンツバーグの魅力とは
2021年2月22日	ダイヤモンド・オンライン	周りと違う道を行く――希少性こそが生存戦略と僕が信じる理由／小沼大地・NPO法人クロスフィールズ代表理事
2021年4月16日	BUSINESS INSIDER	本当の豊かさは“なあなあ”関係にある。小沼大地さんが語る「究極の共助関係」としての夫婦
2021年4月22日	外資就活ドットコム	社会貢献は稼げるか？シリーズ／NPOは社会課題解決のプロ。収益性を上げ、優秀なビジネスパーソンの選択肢に
2021年5月6日	日本経済新聞	私も迷い、道を探した　挑む30代先輩　新社会人への言葉
2021年5月28日	東京新聞	＜月刊 SDGs　2021年5月号＞途上国「留職」でリーダー育成

講演・イベント

2020年度は合計23回登壇しました。

UNDP

「アジアにおける ソーシャルビジネス」



経産省

「ポストコロナ時代の 企業人材育成とは?」



アーカイブ動画はこちら

主催セミナー

今年度はオンラインセミナーを5回にわたって実施。
のべ250名以上の方々が参加しました。



ニューノーマル時代で変わるリーダーシップ育成とは

実施 2020年10月21日

詳細はこちら



明日からできる組織変革の起こし方

実施 2020年11月12日

詳細はこちら



VUCA時代に必要な次世代リーダーの姿とは？

実施 2021年5月28日

詳細はこちら

役職者の越境で若手が変わる？（Change wave社と共催）

実施 2021年3月5日

オンライン研修で個のリーダーシップは育めるか？

実施 2021年4月27日

2020年度収支報告 (2020.6-2021.5)

(単位：円)

科目		2020年度実績
収入	事業収入	220,780,266
	受取会費	829,000
	受取寄附金	400,000
	その他収入	7,818,765
当期収入合計		**229,828,031**
支出	事業費	188,070,418
	管理費	6,222,458
	法人税等	8,652,800
当期支出合計		**202,945,676**
収支	当期純損益	26,882,355
前期繰越正味財産		**113,937,161**
次期繰越正味財産		**140,819,516**

注1) 事業費は、主に人件費、支払報酬費、地代家賃、広告宣伝費など　　注2) 管理費は、主に地代家賃、支払報酬料、消耗品費など

note クロスフィールズ公式noteで公開中



福島県・南相馬を自宅から「体感」ー3.11被災地の人々との対話で見えたこと

2020年9月3日



KIRINのビジネスマンが宮城県・石巻のホップ畑から社会課題に取り組む！

2020年9月30日



インドの辺境で企業の役職者が見つけた「未来のビジネス」の形

2020年10月27日



ニューノーマル時代で変わるリーダーシップ育成とは？

2020年11月20日



明日からできる組織変革の第一歩

2020年12月08日



日本からグローバルに社会課題を解決！2人の挑戦ストーリー

2020年12月10日



家からできる国際協力って？〜オンラインで現地貢献するには〜

2020年12月17日



世界一周を経て飛び込んだクロスフィールズで待っていたもの

2020年12月23日



クロスフィールズ職員がカタリバに「留職」してみたら

2020年12月24日



コンサル会社からNPOに飛び込んで見えた景色

2021年1月20日



オンラインでお楽しみ企画をやったら、案外よかった話

2021年2月10日



全国から100名以上がオンラインで越境！ーコロナ禍でのコミュニティ活動

2021年2月19日



東京から長野県・小布施町にリモート越境！全力で教育課題に取り組む3ヶ月

2021年2月26日



つくば市の職員がカンボジアを「体感」、街の未来につながる3ヶ月

2021年3月25日



漁師町でウニと向き合う3ヶ月で営業パーソンに生まれた変化

2021年5月11日



日本からラオスに「越境」ーリモートで現地の課題に挑んだ3ヶ月

2021年5月27日



松本 初穂子 広報担当

今年度は16本の記事を作成しました。現場の臨場感をお届けするために、これからも様々なクロスフィールズの活動をお伝えしていきます！ぜひ読んでいただけると嬉しいです。